

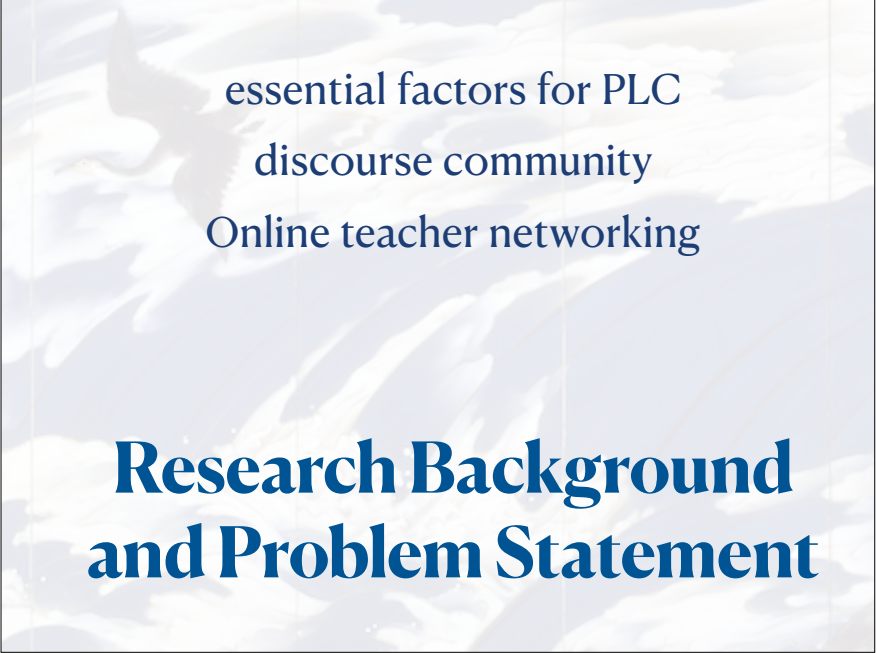


# Creating a Learning Community of Language Teachers

Emergence of “Ba” - Organic Ground for Collaborative Learning

Natsuko Shibata Perera

Theorizing Practice, Practicing Theory: 12th International Language Teacher Education Conference  
Theme III: Collaborations in Language Teacher Education



essential factors for PLC  
discourse community  
Online teacher networking

## Research Background and Problem Statement

### **Problem Statement**

While many studies provide evidence of community practices and suggest factors associated with the sustainment and development of PLC, the emergent process of a learning community of online networks needs to be better understood.



networks  
community of practice

collaborative knowledge creation  
the concept of *ba*

## Theoretical basis

# Theoretical Frame

## Where do we find a network?

Imagery of “place”

in Lieberman’s (2000) explanation about networks:

- The concept and metaphor of networks are “partnerships, collaboratives, are **borderless**, loose, flexible”
- “a training **ground** for **building** collaboration, consensus, and commitment to continuous learning”

Riel & Polin’s (2001) presentation title:

- Communities as **Places** Where Learning Occurs

Imagery of “place”

in discourse among the Japanese language teachers community:

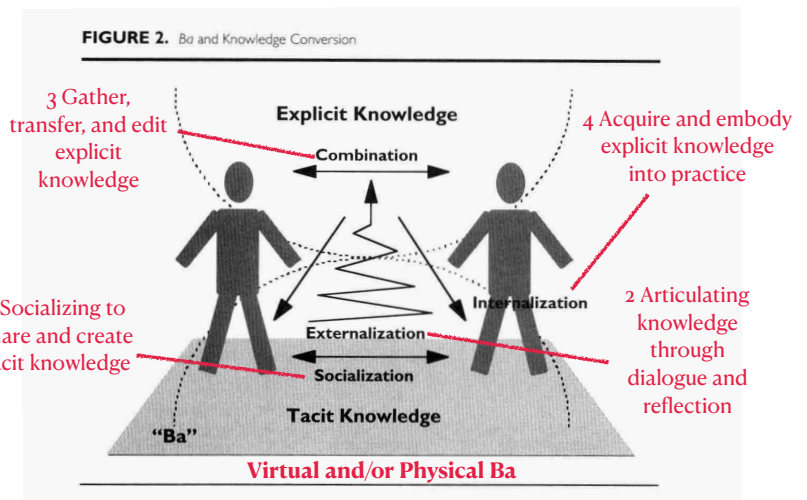
- the **place** is where learning, opinion exchanges, communication, thinking, sharing, experiencing occurs;
- create, arrive at, connect, adjust, provide, change the **place**;

the Japanese word, **ba**.

# Ba

## organizational learning theory

- “a shared space that serves as a foundation for knowledge creation”
- situated local social context
- a physical or virtual place where people work collaboratively
- create both “explicit and tacit knowledge” collectively



Nonaka & Konno 1998, p.44  
words and arrows in red added by presenter  
based on Nonaka & Toayama 2003

To understand how collaborative relationships and their common place, *ba*, in an informally-developed network, help create an online PLC, investigate the process of community emergence and knowledge creation through online interactive discourse.

## Research purpose

narrative approach  
narrative practice approach

conversation analysis  
repetition and imitation

## Research method

repetition and imitation

Finding the references of learner identity

Finding connectedness in discourse between entries

narrative practice approach

## Data analysis method

Japanese language teachers in Europe  
interested in SCT and drama-approach

## The subjects

## Drama for All Language Learning Project

### Aim, Participants, Duration

#### Duration

one year funding during Covid

#### Aim

Producing a collection of various drama-approach learning activities with discussions based on Sociocultural Theory

#### Participants

Japanese language teachers who are interested in drama-approach from Europe, Japan, Australia, USA  
Total 40

## Constructs of the project

### Continuous activities for the Members and Events Open to Public

#### Seminars and Workshops

Well known drama education scholars and drama specialists as guest speakers

Hands-on workshops for drama techniques

#### On-demand SCT seminar

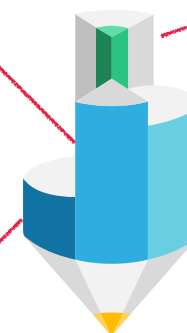
Seminars produced and shared on YouTube for understanding and discussing on Sociocultural Theory

#### Monthly meeting

Reflections and sharing of practice and information on Zoom

#### Virtual online communication

Reflections and sharing of practice and information via Slack, Padlet, and emails



narrative data

interactions on Slack

speech events with multiple interactions

collection

operational definition

collaborative knowledge creation = conversations that co-construct meanings

## Data collection

#### \* Slack Channells

- \* General
- \* Random
- \* On-demand seminar
- \* Monthly meeting reflections
- \* Reflection of a special event

\* 30 entries in writing, except for emoji-only entries and announcements and other administrative notification entries



# Findings and Analyses

## Findings

- ✳ The study found the connectedness among the project members.
- ✳ The discourse showed the members' learning and sharing.
- ✳ The project constructs provided a proper *ba* for each phase of the knowledge creation process.

### Analysis 1

*Online interactive discourse created connections among the members through repetitions and imitations.*

Warmup, Ice-break

**U to everyone >> smiley emoji reactions by N and P**  
 Nさんが今日、授業の最初に話や学習者のテキストを読んで学習者が静かに聴き入る活動を導入していて、それも一種のウォーミングアップでは、と仰いましたよね？（私の理解が違っていたらご指摘ください）それを聞いて、なるほど！私はこれまで定期的な、なにかポイントになる活動だけを「ウォーミングアップ」と考えていたけど、静かな（しかし学習者の内情は「聴き入る」という行為に全神経を集中していてもアクティブになっている）「ウォーミングアップ」もある。確かに自分のクラスでも、最初のリラクセス（目をつぶって読書を開く）の10分程度とクラスの集中力が高まって、その後の共同づくりがスムーズに行きます。

そこでまたはたと、今日最初にさんと雑談で、茶室の話をしたことを思い出したのですよ、外から見ると「静」で交わされる言葉はなくても、茶室で集ってコミュニケーションの場ですと私は茶室を言ったことがないのでうまく言葉にできないのですが、なんか共通点があるんじゃないかな？と書いて書いて見ました。最近、故下義子「白鳥屋好日」お茶が教えてくれた15のしあわせ、を認め、学びを通じた人の成長について改めて考えさせられたせいでもあります。

**N as a specific response to U >> smiley emoji reactions by P**  
 私も、「ウォーミングアップ」って言うていのが分からなくて、「授業の世界に入る」という風に言ったと思います。でも、確かに英語先生の仰っていた、「人と場を結びつける」働きをしていますね。私は今までは、ウォーミングアップと言えば、人と人を結びつけることにかフォーカスしていました。

そして、Uさんの発言で、人・場・ものを、一つのウォーミングアップアクティビティで一緒に結び付ける必要もないことに気が付きました。はじめに場と結び付け、それから人と、というようにつなげていくことも出来るんですね。

**U as a specific response to N >> smiley emoji reactions by N and P**  
 自分が聞き手になってみると、同じリラクセステキストでも「場にしつかり心地よく到着した」と感じる時と、そうでない時があります。言葉を出しているのが日本人でも何かの場とくれないこともあるし、非母語話者、しかも初級の学習者でもうとうとするような朗読をする人もいます。何が違うのか、同僚の先生が朗読の名手なので聞き手になって観望すると、呼吸と言葉のリズムと声のその場の気配があるようです。学習者と場を結び付けるのは、人が人に向けて教える向きであり、声が相手に届き、相手に伝わり、人と人が声で結びついた時に、学習対象である日本語という「もの」と学習者の間にも結びつきが生まれている。不思議なことに、そういうとき、人と人の結びつきは、声の主の教師とそれぞれの学習者の間だけでなく、一緒に目をつぶって聞いている学習者の間にも生まれているように感じます。学習の「場」は、教室といった物理的な「場」、時間、状況、場面といった「場」、クラス共同体という意味での「場」のようだと、いろいろと想像をめぐらすのですが、リラクセスが終わって戻ってきた学習者の顔を見たときに、人・場・ものが何かとつと一度に結びついたような感覚がすることがあります。そういうときは、なんか私にもポジティブなエネルギーが入ってきて、自分も活き活きしてきます。

こういう風に、非常に主観的かつ直感的な話でしか今の私には説明することができないので、自分が書いていることが鮮やかな読み手なのか、そうでないのか、さっぱり判別ができませんが、とりあらず自分が書いていることを書いて見ました。

**U to everyone >> smiley emoji reactions by P, K, T**  
 英語の授業から、アイスブレイクに入る人、人々集、人々を結びつける動きをする（という理解でいいでしょうか？）と今日伺ったことも、これまでの自分の視点を変えたように思います。というのは、これまで私は獲得研の本に書かれている具体的なアイスブレイクのやり方、指示の出し方を覚えてなんとか使っていたことに目を奪われていたのですが、そこだけを見てはだめで、それがなぜ効果的で、どんな機能があるのかしらうろたえているといけないのだな、と（こう書いてしまうと当たり前のことなんです）。そこでまたと、PDL（心理学者を招聘した外国語教授）のデフォー先生から、授業の最初のリラクセス練習は学習者が学習の場にしつかり到着するために使うのだと教えられたことを思い出しました。「しつかり到着する」という意味がこれまでなかなかはつきり分からなかったのですが、今日、そうか、あれは人と場が結びつくようにという意味だったのか、と思い至り、また上に書いた「静かなウォーミングアップ」もあるという考えも結びつきました。

**T to everyone**  
 学習者を「学習者の場」に到着させる、という視点、非常に参考になりました。教師も学生も必要なこの時間、特に今の状況で大切に考えていきたいと思いました。

### Community, Connection

**U to everyone >> smiley emoji reactions by N and P**  
 昨日が平日、授業の最初に詩や学習者のイラストを渡して、学習者が静かに読める活動を導入しています。それも一種のウォーミングアップでは、と向きましたよね？(私の理解が違ってたらご指摘ください) それを聞いて、なるほど！私はこれまで動的な、なにかホットになる活動だけを「ウォーミングアップ」と考えていたけど、静かな(しかし学習者の内側は「燃える」という行為に全神経を集中していてもアクティブになっている)「ウォーミングアップ」もある。確かに自分のクラスでも、最初のリラクセス(目をつぶって閉眼を聞く)の代わりにとクラスの真ん中が高まって、その後の活動がより盛り上がりました。  
 そこではほとんどの生徒が私と人々を離れて、茶室の話をしたことを思い出したのです。外から来た「静」で交わされる言葉は少なくとも、茶室は濃いコミュニケーションの場です？私は茶室を言ったことがないのでうまく言葉でないのですが、なんか共通点があるんじゃないかな？と書いて置きました。最近、真下詩子「日は是好日」が茶が教えてくれた15のしあわせ」を読み、学びを通じた人の成長について改めて考えさせられた思いもあります。

**N as a specific response to U >> smiley emoji reactions by P**  
 私、この「ウォーミングアップ」が書けていいのが分かってきて、「授業の世界に入る」という感じになったと思います。でも、確かに笑顔を返したのと同じくらいフォーカスしていません。私は今までは、ウォーミングアップと言えば、人と人を結びつけることしかフォーカスしていませんでした。そして、Uさんの投稿で、人・場・ものを、一つのウォーミングアップアクティビティで一緒に結び付ける必要もないことに気が付きました。はじめに場と結び付け、それから人と、というように近づけていくことも出来るんですね。

**U as a specific response to N >> smiley emoji reactions by N and P**  
 自分が聞き手になってみると、同じリラクセスキートでも「場」にしっかり心地よく到着した」と感じる時と、そうでない時があります。言葉を発しているのが私であるという心理的な不安は、非言語的、しかし最初の学習者でもうとうとするような緊張をする人もいます。何が違うのか、同僚の先生が読者の名などで聞き手になって観察するに、呼吸と言葉のリズムと声そのものに秘密があるようです。学習者と場を結びつけるのは、人が人に向けて発する声の力であり、声に相手に届き、相手も聞き取り、人と人が声で結びつく時に、学習者である日本語という「場」と学習者の間にも結びつきが生じられる。不思議なことに、そういうときは、人と人の結びつきは、場の意識をそれこそ学習者の意識だけでなく、一緒に目をつぶって閉眼した学習者の間にももたせているように感じます。学習の「場」は、教室といった物理的な「場」、時間、状況、場面といった「場」、クラス関係という意味での「場」のように、いろいろの意味を含むのだと思うのですが、リラクセスが終わって戻ってきた学習者の顔を見たときに、人・場・ものが何かつと一度に結びつくような感覚がすることがあるので、そういうときは、なんか私にも何かがUになんか私が入ってきて、自分も活き活きします。そういう時に、非常に主観的かつ意識的な感覚で今の自分の心には繋がることができないので、自分が感じていることが単なる思い込みなのか、そうでないのか、さっぱり確信がありませんが、とりあえず自分が感じていることを書いて見ました。

**U to everyone >> smiley emoji reactions by P, K, T**  
 筑前先生から、イラストレーは人と人、人と場、人ともを結びつける働きをする(という理解でいいでしょうか?)と今日伺ったことも、これまでの自分の視点を変えたように思います。というのは、これまで私獲得後の本に書かれていた具体的なイラストレーのやり方、指の出し方を見てもなお感じることには目を奪われていたのですが、そこだけ見てはダメで、それがなぜ必要で、どんな機能があるのかもしっかり知る必要はないのかな、と(こう書いてしまうと当たり前のことなんでしょうか)。そこでまたふと、PDL(心療系を応用した外国語教授法)のデフュー先生から、授業の最初のリラクセス練習は学習者が学習の場に入り到着するための行為の行だとおっしゃられたことを思い出しました。「しっかりと到着する」という意味がこれまでにどれだけはっきり分かってきたのですが、今日、そういう、あれは人々を結びつけるようにという意味だったのか、と思い返り、また上に書いた「静かなウォーミングアップ」も必要という考えとも結びつきました。

**T to everyone**  
 学習者を「学習者の場」に到着させる」という視点、非常に参考になりました。教師も学生も必要なこの時間、特に今の状況で大切に考えていきたいと思いました。

### Place, People

**U to everyone >> smiley emoji reactions by N and P**  
 昨日が平日、授業の最初に詩や学習者のイラストを渡して、学習者が静かに読める活動を導入しています。それも一種のウォーミングアップでは、と向きましたよね？(私の理解が違ってたらご指摘ください) それを聞いて、なるほど！私はこれまで動的な、なにかホットになる活動だけを「ウォーミングアップ」と考えていたけど、静かな(しかし学習者の内側は「燃える」という行為に全神経を集中していてもアクティブになっている)「ウォーミングアップ」もある。確かに自分のクラスでも、最初のリラクセス(目をつぶって閉眼を聞く)の代わりにとクラスの真ん中が高まって、その後の活動がより盛り上がりました。  
 そこではほとんどの生徒が私と人々を離れて、茶室の話をしたことを思い出したのです。外から来た「静」で交わされる言葉は少なくとも、茶室は濃いコミュニケーションの場です？私は茶室を言ったことがないのでうまく言葉でないのですが、なんか共通点があるんじゃないかな？と書いて置きました。最近、真下詩子「日は是好日」が茶が教えてくれた15のしあわせ」を読み、学びを通じた人の成長について改めて考えさせられた思いもあります。

**N as a specific response to U >> smiley emoji reactions by P**  
 私、この「ウォーミングアップ」が書けていいのが分かってきて、「授業の世界に入る」という感じになったと思います。でも、確かに笑顔を返したのと同じくらいフォーカスしていません。私は今までは、ウォーミングアップと言えば、人と人を結びつけることしかフォーカスしていませんでした。そして、Uさんの投稿で、人・場・ものを、一つのウォーミングアップアクティビティで一緒に結び付ける必要もないことに気が付きました。はじめに場と結び付け、それから人と、というように近づけていくことも出来るんですね。

**U as a specific response to N >> smiley emoji reactions by N and P**  
 自分が聞き手になってみると、同じリラクセスキートでも「場」にしっかり心地よく到着した」と感じる時と、そうでない時があります。言葉を発しているのが私であるという心理的な不安は、非言語的、しかし最初の学習者でもうとうとするような緊張をする人もいます。何が違うのか、同僚の先生が読者の名などで聞き手になって観察するに、呼吸と言葉のリズムと声そのものに秘密があるようです。学習者と場を結びつけるのは、人が人に向けて発する声の力であり、声に相手に届き、相手も聞き取り、人と人が声で結びつく時に、学習者である日本語という「場」と学習者の間にも結びつきが生じられる。不思議なことに、そういうときは、人と人の結びつきは、場の意識をそれこそ学習者の意識だけでなく、一緒に目をつぶって閉眼した学習者の間にももたせているように感じます。学習の「場」は、教室といった物理的な「場」、時間、状況、場面といった「場」、クラス関係という意味での「場」のように、いろいろの意味を含むのだと思うのですが、リラクセスが終わって戻ってきた学習者の顔を見たときに、人・場・ものが何かつと一度に結びつくような感覚がすることがあるので、そういうときは、なんか私にも何かがUになんか私が入ってきて、自分も活き活きします。そういう時に、非常に主観的かつ意識的な感覚で今の自分の心には繋がることができないので、自分が感じていることが単なる思い込みなのか、そうでないのか、さっぱり確信がありませんが、とりあえず自分が感じていることを書いて見ました。

**U to everyone >> smiley emoji reactions by P, K, T**  
 筑前先生から、イラストレーは人と人、人と場、人ともを結びつける働きをする(という理解でいいでしょうか?)と今日伺ったことも、これまでの自分の視点を変えたように思います。というのは、これまで私獲得後の本に書かれていた具体的なイラストレーのやり方、指の出し方を見てもなお感じることには目を奪われていたのですが、そこだけ見てはダメで、それがなぜ必要で、どんな機能があるのかもしっかり知る必要はないのかな、と(こう書いてしまうと当たり前のことなんでしょうか)。そこでまたふと、PDL(心療系を応用した外国語教授法)のデフュー先生から、授業の最初のリラクセス練習は学習者が学習の場に入り到着するための行為の行だとおっしゃられたことを思い出しました。「しっかりと到着する」という意味がこれまでにどれだけはっきり分かってきたのですが、今日、そういう、あれは人々を結びつけるようにという意味だったのか、と思い返り、また上に書いた「静かなウォーミングアップ」も必要という考えとも結びつきました。

**T to everyone**  
 学習者を「学習者の場」に到着させる」という視点、非常に参考になりました。教師も学生も必要なこの時間、特に今の状況で大切に考えていきたいと思いました。

### Warmup, Ice-break

**U to everyone >> smiley emoji reactions by N and P**  
 昨日が平日、授業の最初に詩や学習者のイラストを渡して、学習者が静かに読める活動を導入しています。それも一種のウォーミングアップでは、と向きましたよね？(私の理解が違ってたらご指摘ください) それを聞いて、なるほど！私はこれまで動的な、なにかホットになる活動だけを「ウォーミングアップ」と考えていたけど、静かな(しかし学習者の内側は「燃える」という行為に全神経を集中していてもアクティブになっている)「ウォーミングアップ」もある。確かに自分のクラスでも、最初のリラクセス(目をつぶって閉眼を聞く)の代わりにとクラスの真ん中が高まって、その後の活動がより盛り上がりました。  
 そこではほとんどの生徒が私と人々を離れて、茶室の話をしたことを思い出したのです。外から来た「静」で交わされる言葉は少なくとも、茶室は濃いコミュニケーションの場です？私は茶室を言ったことがないのでうまく言葉でないのですが、なんか共通点があるんじゃないかな？と書いて置きました。最近、真下詩子「日は是好日」が茶が教えてくれた15のしあわせ」を読み、学びを通じた人の成長について改めて考えさせられた思いもあります。

**N as a specific response to U >> smiley emoji reactions by P**  
 私、この「ウォーミングアップ」が書けていいのが分かってきて、「授業の世界に入る」という感じになったと思います。でも、確かに笑顔を返したのと同じくらいフォーカスしていません。私は今までは、ウォーミングアップと言えば、人と人を結びつけることしかフォーカスしていませんでした。そして、Uさんの投稿で、人・場・ものを、一つのウォーミングアップアクティビティで一緒に結び付ける必要もないことに気が付きました。はじめに場と結び付け、それから人と、というように近づけていくことも出来るんですね。

**U as a specific response to N >> smiley emoji reactions by N and P**  
 自分が聞き手になってみると、同じリラクセスキートでも「場」にしっかり心地よく到着した」と感じる時と、そうでない時があります。言葉を発しているのが私であるという心理的な不安は、非言語的、しかし最初の学習者でもうとうとするような緊張をする人もいます。何が違うのか、同僚の先生が読者の名などで聞き手になって観察するに、呼吸と言葉のリズムと声そのものに秘密があるようです。学習者と場を結びつけるのは、人が人に向けて発する声の力であり、声に相手に届き、相手も聞き取り、人と人が声で結びつく時に、学習者である日本語という「場」と学習者の間にも結びつきが生じられる。不思議なことに、そういうときは、人と人の結びつきは、場の意識をそれこそ学習者の意識だけでなく、一緒に目をつぶって閉眼した学習者の間にももたせているように感じます。学習の「場」は、教室といった物理的な「場」、時間、状況、場面といった「場」、クラス関係という意味での「場」のように、いろいろの意味を含むのだと思うのですが、リラクセスが終わって戻ってきた学習者の顔を見たときに、人・場・ものが何かつと一度に結びつくような感覚がすることがあるので、そういうときは、なんか私にも何かがUになんか私が入ってきて、自分も活き活きします。そういう時に、非常に主観的かつ意識的な感覚で今の自分の心には繋がることができないので、自分が感じていることが単なる思い込みなのか、そうでないのか、さっぱり確信がありませんが、とりあえず自分が感じていることを書いて見ました。

### Community, Connection

**U to everyone >> smiley emoji reactions by N and P**  
 昨日が平日、授業の最初に詩や学習者のイラストを渡して、学習者が静かに読める活動を導入しています。それも一種のウォーミングアップでは、と向きましたよね？(私の理解が違ってたらご指摘ください) それを聞いて、なるほど！私はこれまで動的な、なにかホットになる活動だけを「ウォーミングアップ」と考えていたけど、静かな(しかし学習者の内側は「燃える」という行為に全神経を集中していてもアクティブになっている)「ウォーミングアップ」もある。確かに自分のクラスでも、最初のリラクセス(目をつぶって閉眼を聞く)の代わりにとクラスの真ん中が高まって、その後の活動がより盛り上がりました。  
 そこではほとんどの生徒が私と人々を離れて、茶室の話をしたことを思い出したのです。外から来た「静」で交わされる言葉は少なくとも、茶室は濃いコミュニケーションの場です？私は茶室を言ったことがないのでうまく言葉でないのですが、なんか共通点があるんじゃないかな？と書いて置きました。最近、真下詩子「日は是好日」が茶が教えてくれた15のしあわせ」を読み、学びを通じた人の成長について改めて考えさせられた思いもあります。

**N as a specific response to U >> smiley emoji reactions by P**  
 私、この「ウォーミングアップ」が書けていいのが分かってきて、「授業の世界に入る」という感じになったと思います。でも、確かに笑顔を返したのと同じくらいフォーカスしていません。私は今までは、ウォーミングアップと言えば、人と人を結びつけることしかフォーカスしていませんでした。そして、Uさんの投稿で、人・場・ものを、一つのウォーミングアップアクティビティで一緒に結び付ける必要もないことに気が付きました。はじめに場と結び付け、それから人と、というように近づけていくことも出来るんですね。

**U as a specific response to N >> smiley emoji reactions by N and P**  
 自分が聞き手になってみると、同じリラクセスキートでも「場」にしっかり心地よく到着した」と感じる時と、そうでない時があります。言葉を発しているのが私であるという心理的な不安は、非言語的、しかし最初の学習者でもうとうとするような緊張をする人もいます。何が違うのか、同僚の先生が読者の名などで聞き手になって観察するに、呼吸と言葉のリズムと声そのものに秘密があるようです。学習者と場を結びつけるのは、人が人に向けて発する声の力であり、声に相手に届き、相手も聞き取り、人と人が声で結びつく時に、学習者である日本語という「場」と学習者の間にも結びつきが生じられる。不思議なことに、そういうときは、人と人の結びつきは、場の意識をそれこそ学習者の意識だけでなく、一緒に目をつぶって閉眼した学習者の間にももたせているように感じます。学習の「場」は、教室といった物理的な「場」、時間、状況、場面といった「場」、クラス関係という意味での「場」のように、いろいろの意味を含むのだと思うのですが、リラクセスが終わって戻ってきた学習者の顔を見たときに、人・場・ものが何かつと一度に結びつくような感覚がすることがあるので、そういうときは、なんか私にも何かがUになんか私が入ってきて、自分も活き活きします。そういう時に、非常に主観的かつ意識的な感覚で今の自分の心には繋がることができないので、自分が感じていることが単なる思い込みなのか、そうでないのか、さっぱり確信がありませんが、とりあえず自分が感じていることを書いて見ました。

### Place, People

**U to everyone >> smiley emoji reactions by N and P**  
 昨日が平日、授業の最初に詩や学習者のイラストを渡して、学習者が静かに読める活動を導入しています。それも一種のウォーミングアップでは、と向きましたよね？(私の理解が違ってたらご指摘ください) それを聞いて、なるほど！私はこれまで動的な、なにかホットになる活動だけを「ウォーミングアップ」と考えていたけど、静かな(しかし学習者の内側は「燃える」という行為に全神経を集中していてもアクティブになっている)「ウォーミングアップ」もある。確かに自分のクラスでも、最初のリラクセス(目をつぶって閉眼を聞く)の代わりにとクラスの真ん中が高まって、その後の活動がより盛り上がりました。  
 そこではほとんどの生徒が私と人々を離れて、茶室の話をしたことを思い出したのです。外から来た「静」で交わされる言葉は少なくとも、茶室は濃いコミュニケーションの場です？私は茶室を言ったことがないのでうまく言葉でないのですが、なんか共通点があるんじゃないかな？と書いて置きました。最近、真下詩子「日は是好日」が茶が教えてくれた15のしあわせ」を読み、学びを通じた人の成長について改めて考えさせられた思いもあります。

**N as a specific response to U >> smiley emoji reactions by P**  
 私、この「ウォーミングアップ」が書けていいのが分かってきて、「授業の世界に入る」という感じになったと思います。でも、確かに笑顔を返したのと同じくらいフォーカスしていません。私は今までは、ウォーミングアップと言えば、人と人を結びつけることしかフォーカスしていませんでした。そして、Uさんの投稿で、人・場・ものを、一つのウォーミングアップアクティビティで一緒に結び付ける必要もないことに気が付きました。はじめに場と結び付け、それから人と、というように近づけていくことも出来るんですね。

**U as a specific response to N >> smiley emoji reactions by N and P**  
 自分が聞き手になってみると、同じリラクセスキートでも「場」にしっかり心地よく到着した」と感じる時と、そうでない時があります。言葉を発しているのが私であるという心理的な不安は、非言語的、しかし最初の学習者でもうとうとするような緊張をする人もいます。何が違うのか、同僚の先生が読者の名などで聞き手になって観察するに、呼吸と言葉のリズムと声そのものに秘密があるようです。学習者と場を結びつけるのは、人が人に向けて発する声の力であり、声に相手に届き、相手も聞き取り、人と人が声で結びつく時に、学習者である日本語という「場」と学習者の間にも結びつきが生じられる。不思議なことに、そういうときは、人と人の結びつきは、場の意識をそれこそ学習者の意識だけでなく、一緒に目をつぶって閉眼した学習者の間にももたせているように感じます。学習の「場」は、教室といった物理的な「場」、時間、状況、場面といった「場」、クラス関係という意味での「場」のように、いろいろの意味を含むのだと思うのですが、リラクセスが終わって戻ってきた学習者の顔を見たときに、人・場・ものが何かつと一度に結びつくような感覚がすることがあるので、そういうときは、なんか私にも何かがUになんか私が入ってきて、自分も活き活きします。そういう時に、非常に主観的かつ意識的な感覚で今の自分の心には繋がることができないので、自分が感じていることが単なる思い込みなのか、そうでないのか、さっぱり確信がありませんが、とりあえず自分が感じていることを書いて見ました。

## Analysis 2

*Learning occurred in the collaborative discourse where meanings were co-constructed, and knowledge was collaboratively created.*





### Analysis 3

An online informally-developed network provided *ba* for knowledge creation.



### The two phases of *ba*

- \* peer-to-peer interactive and reflective *ba* on Slack
- \* *Ba* on Slack to combine multiple knowledge and add new knowledge

## Discussion

Collaborative relationships are developed through online interactive, reflective discourse, from which knowledge is collaboratively created.



You (N) said today that you introduced an activity at the beginning of class where you read a poem or a text by a learner and the classmates listen quietly, and you said that this was also a kind of warming up, didn't you? (Please point out if my understanding is different. When I heard that, I see I used to think of warming up only as a dynamic, something hot activity, but there is also a static (but very active, with the learner's whole inner being focused on the act of listening) warming up. Certainly in my own classes, the first 10 minutes of relaxation (listening to the readings with eyes closed) suddenly makes the class more focused and the subsequent community-building goes smoothly.

Then I remembered that I had talked about the tea ceremony with Mrs S at the beginning of the day. From the outside, there may be few words exchanged in the silliness of the tea room, but the tea ceremony is a place of intense communication, isn't it? I have never studied tea ceremony, so I can't really put it into words, but I think there must be some similarities. So I thought I'd write about it. Recently, I read a book by Noriko Morishita, "Ninichichi Kore Kojitsu - Tea Teaches Me 15 Happinesses", which made me think again about the growth of people through learning.

---

wasn't sure I should use the word warming up, so I think I said it like entering the world of teaching. But it certainly works to bring people and places together, as Dr M said. Until now, when I spoke of warming up, I had only focused on bringing people together.

And with your (U's) contribution, I also realised that it is not necessary to connect people, places and things all at once in one warming up activity. We can connect with the place first, then with the people, and so on, could we?

---

When I become the listener, there are times when I feel that I have arrived firmly and comfortably in the place, and times when I do not, even with the same relaxing text. Sometimes, even if the speaker of the words is Japanese, I cannot feel comfortable in some way, and some non-native speakers, and even beginner learners give entrancing readings. To find out what the difference is, since my colleague U-sensei is a master reader, I became a listener and observed it, and it seems that the secret lies in the breathing, the rhythm of the words and the voice itself. It is the power of the flesh voice that people emit towards others that connects the learner and the place, and when the voice reaches the other person, shakes them, and connects people with each other through voice, a connection is also created between the learner and the object of study, the 'thing' called Japanese language. Strangely enough, at such times, the connection between people seems to be created not only between the teacher, who is the owner of the voice, and the respective learners, but also between the learners who are listening with their eyes closed together. The place of learning can mean many things, such as the physical place of the classroom, the place of time, situation and scene, and the place of the class community, but when I look at the learners' faces when they come back after relaxing, I sometimes feel as if people, places and things are all connected at once. When that happens, I also feel a positive energy coming in and I become more lively.

I can only explain in a very subjective and intuitive way, so I am not sure if this is just an assumption or not, but at any rate I wrote what I am feeling.

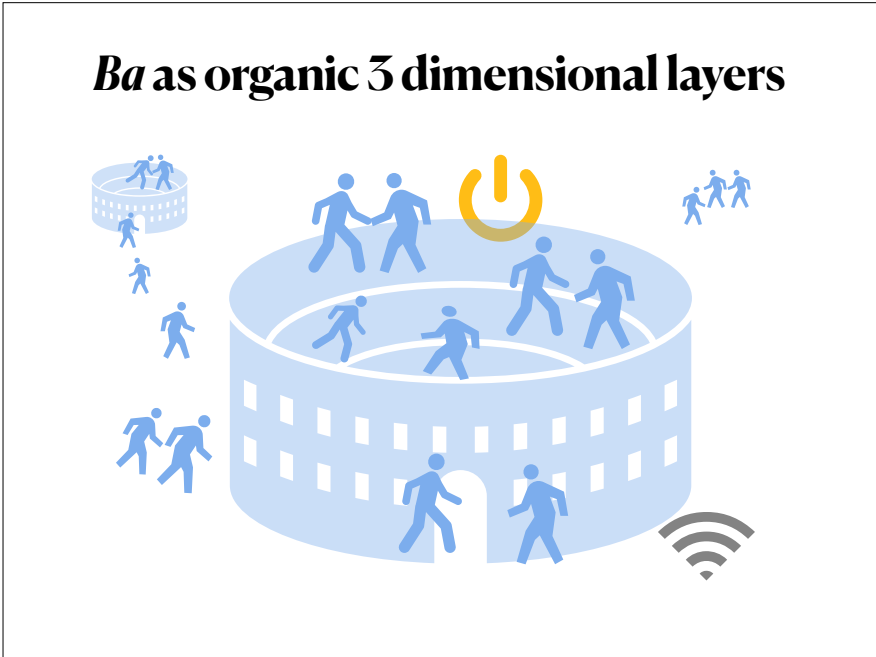
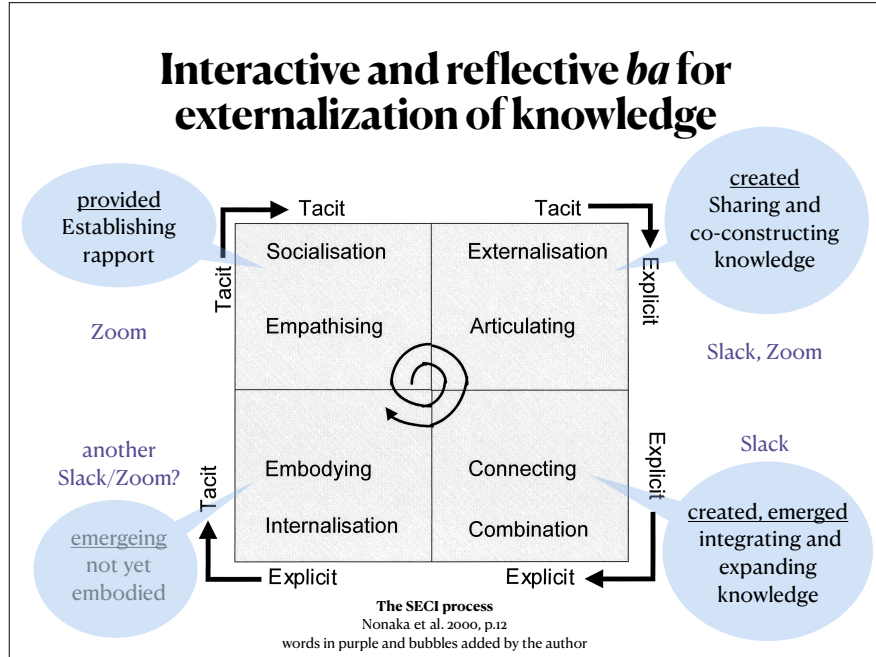
---

I think that what Dr M told us today that icebreakers bring people and people, people and places, people and things together (is that right?) - has also changed my perspective so far. I had been focused on learning specific ice-breaking methods and how to give instructions in the books written by the Institute for Acquisition Studies, and somehow managed to master them, but I now realise that it is not enough to just look at that, and that it is necessary to know why they are necessary and what functions they have (this may seem obvious if I write it like this). Then it occurred to me again that I had been taught by my PDL (Psychodrama in Language Teaching) teacher, Mr Dufeu, that the relaxation exercise at the beginning of the lesson is to ensure that the learner arrives at the place of learning. I had never really understood what he meant by arriving firmly, but today I realise that he meant it to help people connect with the place, and it also ties in with the idea that there is also a static warming up, as mentioned above.

---

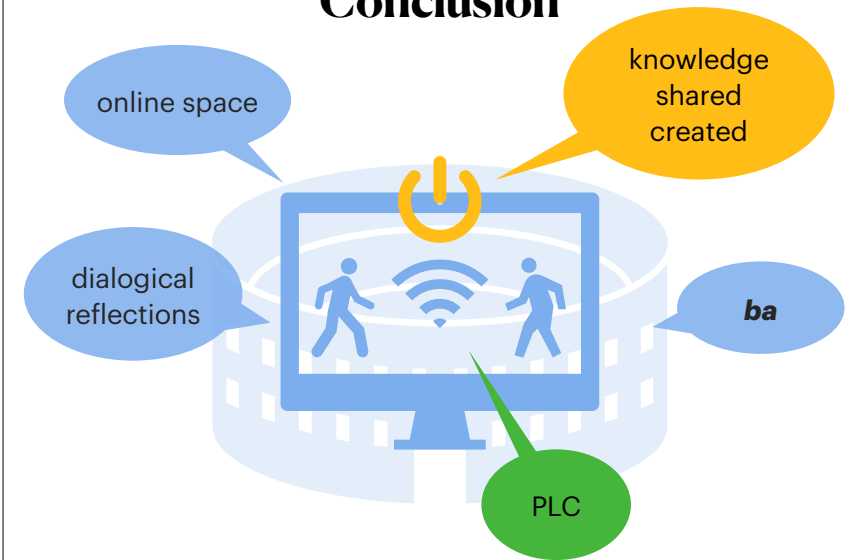
The perspective of letting the learner arrive at the learning place was very helpful for me to think. I wanted to think carefully about such a precious period of time, which is necessary for both teachers and students, especially in the current situation.

# Ba for a learning community provided, emerged, created in an online network



# Conclusion and Implications

## Conclusion



## Implications

Online *ba* as affordances to activate practice

- \* informally-developed PLC
- \* lesser-applied teaching/learning approaches
- \* international participation

## Further studies

- \* Finding connectedness between oral interactions on online Zoom meetings and written interactions on Slack
- \* Examining the embodying *ba* phase that synthesizes internalized knowledge with practice

## The emergence of internalization

### Anecdotes:

A member developed a drama technique for community building.

Another member created a new community of practice to enjoy and perform Kobanashi, the Japanese traditional small joke performance.

## REFERENCES

- Barab, Sasha A., James G. Makinster, and Rebecca Scheckler. 2003. "Designing System Dualities: Characterizing a Web-Supported Professional Development Community." *The Information Society* 19(3):237-56. doi: 10.1080/01972240309466.
- Lantz-Andersson, Annika, Mona Lundin, and Neil Selwyn. 2018. "Twenty Years of Online Teacher Communities: A Systematic Review of Formally-Organized and Informally-Developed Professional Learning Groups." *Teaching and Teacher Education* 75:302-15. doi: 10.1016/j.tate.2018.07.008.
- Lefstein, Adam, Nicole Louie, Aliza Segal, and Ayelet Becher. 2020. "Taking Stock of Research on Teacher Collaborative Discourse: Theory and Method in a Nascent Field." *Teaching and Teacher Education* 88:102954. doi: 10.1016/j.tate.2019.102954.
- Lefstein, Adam, Dana Vedder-Weiss, and Aliza Segal. 2020. "Relocating Research on Teacher Learning: Toward Pedagogically Productive Talk." *Educational Researcher* 49(5):360-68.
- Lieberman, Ann. 2000. "Networks as Learning Communities: Shaping the Future of Teacher Development." *Journal of Teacher Education* 51(3):221-27. doi: 10.1177/0022487100051003010.
- Lieberman, Ann, and Maureen Grolnick. 1996. "Networks and Reform in American Education." *Teachers College Record* 98:X-45. doi: 10.1177/016146819609800106.
- Lieberman, Ann, and Maureen Grolnick. 1998. "Educational Reform Networks: Changes in the Forms of Reform." Pp. 710-29 in *International Handbook of Educational Change: Part One*, edited by A. Hargreaves, A. Lieberman, M. Fullan, and D. Hopkins. Dordrecht: Springer Netherlands.
- Lieberman, Ann, and Milbrey McLaughlin. 1992. "Networks for Educational Change: Powerful and Problematic." *Phi Delta Kappan* 73.
- Lieberman, Ann, and Lynne Miller. 2008. *Teachers in Professional Communities*. New York, NY: Teachers College Press.
- Luo, Tian, Candice Freeman, and Jill Stefaniak. 2020. "Like, Comment, and Share"—Professional Development through Social Media in Higher Education: A Systematic Review." *Educational Technology Research and Development* 68(4):659-83. doi: 10.1007/s11423-020-09790-5.
- Nonaka, Ikujiro, and Noboru Konno. 1998. "The Concept of 'Ba': Building a Foundation for Knowledge Creation." *California Management Review* 40(3):40-54. doi: 10.2307/41165942.
- Nonaka, Ikujiro, Ryoko Toyama, and Noboru Konno. 2000. "SECI, Ba and Leadership: A Unified Model of Dynamic Knowledge Creation." *Long Range Planning* 33:5-34. doi: 10.1016/S0024-6301(99)00115-6.
- Riel, Margaret, and Linda Polin. 2004. "Online Learning Communities: Common Ground and Critical Differences in Designing Technical Environments." Pp. 16-50 in *Designing for Virtual Communities in the Service of Learning, Learning in Doing: Social, Cognitive and Computational Perspectives*, edited by S. Barab, R. Kling, and J. H. Gray. Cambridge: Cambridge University Press.
- Tannen, Deborah. 1987. "Repetition in Conversation: Toward a Poetics of Talk." *Language* 574-605.
- Tannen, Deborah. 2007. *Talking Voices: Repetition, Dialogue, and Imagery in Conversational Discourse*. Vol. 26. Cambridge University Press.